

アイヌの伝統的生活空間の再生に関する事業実施計画（平成21年度）（案）

第1章 基本的事項

1 事業の目的

平成21年度の白老地域及び平取地域におけるアイヌの伝統的生活空間（イオル）の再生事業については、「アイヌの伝統的生活空間の再生に関する基本構想」、「アイヌの伝統的生活空間の再生に関する実施要領」に基づき、平成18年度から実施している事業の検証・評価を踏まえながら、「アイヌの伝統的生活空間の再生事業の中期的展開方針に関する報告書」に示した各地域のめざす姿の実現に向け、平成20年度に引き続き、自然素材の試験栽培、コタンの再生を通じた自然素材を活用した伝承活動等への支援や管理運営体制の拡充を図る。

2 推進体制

（1）基本方針

アイヌ文化振興等施策推進会議が全体的な監理を行う下で、アイヌ文化振興・研究推進機構（以下、アイヌ文化振興財団という。）は、事業主体として各事業実施地域（白老地域・平取地域）の意向を踏まえて事業の推進に努めるものとする。

また、各地域においては、アイヌの人々を中心に、行政機関等の関係機関（団体）からなる協議会等を設置することにより、事業に対する地元意向の取りまとめや、実施にあたっての各種調整など、必要となる協力を行うものとする。

（2）事業実施方法

地域における事業の実施にあたっては、財団が直接事業を執行するもののほか、その内容に応じ適切な関係団体等に委託し、学芸員、アイヌ文化伝承活動実践者などの指導及び協力を得て実施する。

（3）推進管理

アイヌ文化振興財団は、イオルの再生事業検討会議を開催し、各地域の事業実施進捗状況及び事業実施内容の検証を行うとともに、財団内部の手続も経ながら、各事業実施地域の事業の効率的な推進を図る。

3 留意事項

（1）植栽、試験栽培

「イオル再生等アイヌ文化伝承方策基礎調査」（平成15年度・16年度：財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構）その他の各地域における植生調査等の結果を踏まえ地域の生態系に十分配慮する。

- ・植栽物への食害防止のため、柵、ネット等による対策を講じる。
- ・植栽地区については、自生する樹木や植物の採取又は生息する動物等の採捕が将来的に行える空間を維持できるよう、その生育状況等に十分配慮する。
- ・過年度の植栽及び試験栽培地区についても適切な肥培管理を行う。

（2）空間の整備（コタン再生）

地元関係者、アイヌ実践活動実践者、有識者等の意向を踏まえた実現可能な整備方針を策定し、関係法令等を遵守しつつ、予算、整備期間等を考慮した段階的な実施に努めること。

(3) 土地の使用

財団が事業を実施する際には長期間、安定的な土地の使用が必要不可欠であることから、町有地等の公有地を無償で提供を受けることを基本とし、土地使用貸借契約等必要な契約を締結すること。

(4) 規制緩和措置等

アイヌ文化振興財団は、水産動物の採捕や鳥獣等の捕獲、国有林野内での植栽、河川区域内の行為などに関する規制緩和や許可に関し、事業の実績やアイヌの人々の意向等を踏まえつつ、有効な措置等についての検討を進める。

4 関連事業の活用

事業の効果的な推進を図る観点から、アイヌ文化振興財団が実施する他の事業のほか、関連する事業等の活用を図る。

5 弾力的対応

緊急的な事業の実施を要する場合、事業の執行上効率的であると判断する場合等において、地域事情を考慮し弾力的に対応することができるものとする。

ただし、対応にいたるまでの根拠を明確にし、所要の手続きを経なければならないものとする。

6 事業の検証と評価

アイヌ文化振興財団は、イオルの再生事業検討会議の審議状況に沿って各年度の事業状況の検証・評価を行うとともに「アイヌの伝統的生活空間の再生事業の中期的展開方針に関する報告書」の最終年度である平成22年度中に、ネットワークの形成も含めた中期的・長期的な視点で、アイヌの人々の意向を尊重しつつ、他の地域の特性などを踏まえ、平成23年度以降の本格実施に向けての検証と評価を行う。

第2章 地域計画

第1部 白老地域計画

1 白老地域イオルの目指す姿

白老地域については、ポロト湖畔周辺を植栽空間や自然素材採取空間と結び核とするほか各種事業や活動拠点となる空間としても位置付けて、これまで白老地域が培ってきたアイヌ文化に関する知識や経験とあわせて、実践的な活動を通じた伝承者の育成や、アイヌ文化の体験を通じた普及啓発活動を行う、「教育（学習）型」イオルを指向する。

このため、平成21年度においては、ポロト湖畔にコタンを再現する取組をさらに進めるとともに、管理運営体制を充実させ、しらおいイオル事務所「チキサニ」を中心とした情報の集積・実践活動の支援等を円滑に進められる体制づくりを目指す。

- ・自然空間においては、地域のアイヌの人々が中心となって伝承活動を実施
- ・ポロト湖畔周辺空間において、博物館と連携を図り、伝承活動や体験交流事業を実施
- ・植栽物とともに、将来に向かってアイヌ文化を護り継ぐ。

2 基本的方針

アイヌの人々が中心となって、ウタリ協会白老支部、（財）アイヌ民族博物館、白老町等の関係者と連携し、白老イオル事務所を核に管理運営、保育管理、活用管理などの教育（学習）型イオルとして各種事業の円滑な推進を図る。

3 事業実施計画

（1）空間形成事業

① 植栽事業

平成18年度、平成19年度に植栽した陣屋地区、ポロト自然休養林地区及びポロト地区の維持管理等を実施する。

また、ポロト自然休養林地区については、森林管理署との協定に基づき「森づくりの体験学習」等の年間活動計画を策定し実施する。

各地区において、保育観察・定期巡視を実施し状況を把握するとともに、必要に応じて除草・草刈作業、また、見学者等の安全確保のため工作物の保守管理を実施する。

- ・保育観察・定期巡視業務
- ・除草・草刈作業、工作物管理作業等

② 試験栽培

アイヌの人々が伝統的文化活動を行う際に必要となる自然素材を確保するため、森野地区での試験栽培を引き続き実施するとともに、ヨコスト地区で海浜植物の試験栽培を実施し、採取及び採捕の空間を維持する。

また、試験栽培により、穀物、苗木、有用植物、海浜植物の生育状況を記録するとともに、作業や収穫物を伝承者育成事業、体験交流事業等に利活用する。

- ・穀物（アワ、ヒエ、キビ）及び苗木の試験栽培の実施、収穫物を伝承者育成事業・体験交流事業に活用（森野地区）
- ・苗木の成長記録・種子の採取、苗木の移植、有用・薬用植物の試験栽培（森野地区）
- ・海浜植物の試験栽培（ヨコスト地区）
- ・各地区の保育観察、定期巡視

③ 空間整備（コタンの再生）

ポロト湖畔地区において、アイヌの人々の歴史や自然観に根ざした工芸技術等の伝承活動の場や自然と共生していたアイヌの人々の知恵を学習するため、長老等の意見や調査研究に裏付けられた伝統的なチセを復元し、イオル空間としてのコタンの再生等を行う。

- ・チセ等の復元
- ・チセ周辺の自然環境整備
- ・コタンの機能の充実

（２）空間活用事業

① 体験交流事業

地元関係機関による白老イオル体験交流事業推進協議会が主体となって、地域内の各種事業と連携を図りながら、体験交流指導者育成事業の受講者をリーダーとしたイオル空間を活用した各種体験交流事業を実施する。

また、白老町内外の各種文化団体等で活動している者を中心とする体験交流指導員候補者に対し、体験交流事業での実践活動等によりアイヌ文化に関する知識や自然素材の活用法等の講義を行い、体験する人の年齢・理解度に応じて、適切な指導ができる専門知識を持つ指導者を養成する。

- ・アイヌ民族の漁文化と自然との関わり方学習事業
- ・川のイオル体験交流事業
- ・山のイオル宿泊体験交流事業
- ・アイヌ文化の体験、体感交流事業

（３）空間の管理運営

① しらおいイオル事務所「チキサニ」運営事業

教育（学習）型イオル事業運営の拠点として、アイヌの人々が主体的に空間の管理運営を行うとともに、アイヌの人々や広く一般に対して、アイヌ民族や文化に関する学習機会や情報を提供する場として活用する。

また、平成２０年度事業で設置したチセ等の適正な維持管理を実施しながら、アイヌの人々や広く一般に対して、アイヌ民族や文化に関する学習機会や情報を提供する場として活用する。

② 管理運営事業

白老地域のイオル再生事業全体について、総合的に管理運営するため、地域の実施計画のとりまとめや関係機関との連絡調整を図る。

- ・事業実施における全体的な進捗状況の管理及び事業実施機関への適切な指導・助言等
- ・事業運営に当たっての地域の関係機関・団体との連絡調整等

第2部 平取地域計画

1 平取地域イオルの目指す姿

平取地域については、沙流川流域の豊かな自然の中で、多くのアイヌの人々が生活に密着した伝統文化活動を行っている。

こうした活動を支援するため、広大なイオル空間を設定し、自然素材の採取の場となるイオルの森や水辺空間等を活用して植栽、試験栽培を行うとともに、生活文化の中心であったコタンの再現などを行い、即時利用が可能な自然素材を活用した活動の拡がりや進化を目指す「活動型イオル」を指向する。

このため、平成21年度においては、イオルの森等から自然素材を採取し活用するための準備を進めるとともに、苗畑や水辺空間において試験栽培を行い、コタンやイオル空間等での伝承活動を行うための基盤づくりと体験交流活動を実施する。

- ・自然素材の持続的な採取等を可能とするイオルの森の形成及びコタンの再現
- ・苗畑での植栽管理及び水辺空間での試験栽培の実施
- ・生活文化の拠点となるコタンでの伝承活動の実践
- ・アイヌ文化の体験交流活動の実施

2 基本的方針

平取町、関係機関やアイヌ文化伝承活動実践団体の代表者等を構成員とする沙流川流域イオル構想平取町推進協議会は、平取地域のイオル事業の円滑な推進に資するものとする。

この協議会のもと、検討部会等での検討・協議を経て、アイヌの人々が主体的に意見を反映するイオル空間の整備とコタンの形成に必要な平取町内の町有地等の円滑な利用等により、整備した空間の維持管理、運営を行う。

3 事業実施計画

(1) 空間形成事業

① 空間整備（コタンの再現）事業

協議会のもと、ウタリ協会平取支部等が主体となって、伝承者と専門家の協力を得てチセの復元図を作成し、イオルの森等から必要な自然素材を採取・加工・利用し復元する。工程の折々には伝統儀礼（カムイノミなど）を実践する。

また、二風谷地区においてコタンの再現方針に基づく基盤整備を実施するとともに、復元したポロチセにおいて伝承活動を展開する。

さらに、アイヌ文化の伝統工芸指導や体験交流指導を目指す希望者に対して、アイヌ文化に関する知識や自然素材の活用等について講義と実習・実践・技術指導を行う。

- ・コタンの再現と運営管理
- ・チセ等の復元
- ・コタン周辺の伝承の場としての整備と伝承活動の実践

② 試験栽培事業

イオルの森の自然素材（草本・木本）の現状を把握するため、現況調査を引き続き実施する。また、イオルの森と水辺空間に係る整備方針を基に計画的に事業を実施し、そのために必要な整備と管理運営を行う。

- ・苗畑に移植した稚樹の育成管理、播種した苗の育苗管理及び稚樹の移植、養苗（二風谷地区）
- ・ポント（小さい沼）でのカヤやガマ等の試験栽培及び必要な整備（本町地区河川敷地）
- ・アマムトイ（穀物畑）での造成・緑肥及びヌブカトイ（丘畑）でのアマム（穀物）の試験栽培（本町河川敷地・二風谷地区）

（２）空間活用事業

① 体験交流事業

アイヌ文化伝承活動実践団体及び伝承者が主体となって、コタン・イオルの森・水辺空間及び伝承基盤等を活用した各種体験交流事業を企画し実施する。

- ・伝説地やアイヌ語地名などの伝承基盤を活用した体験交流事業
- ・コタン・イオルの森・水辺空間を活用した体験交流事業

（３）空間の管理運営

① 管理運営事業

平取地域のイオル事業全体について、総合的に運営管理するため、地域の実施計画のとりまとめや関係機関との連携調整を図る。

第3章 連携促進事業その他の取り組み

1 事業の目的

白老地域及び平取地域の地勢や歴史的要因等の差により、イオルの特性も異なることから、この差異を踏まえ適切に機能分担を行ったうえで、自然素材や人材等についての連携を促進することにより、両地域が相互に補完し合い、事業の相乗効果が期待できる。

また、周辺地域を含めた、各地域共通の課題の解決や取り組みの更なる充実を図ることが重要であることから、平成21年度においては、各地域におけるこれまでの事業の検証・評価を行い課題を整理するとともに、両地域の連携促進事業を実施することにより、伝承者の育成を図る。

2 基本的方針

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が、各地域のイオルの特性を分析し、具体的連携方策の検討を行うとともに、他地域への情報の共有化を推進し、イオル事業を担う人材（伝承者）の育成を図る。

3 事業実施計画

(1) ネットワーク・ライブラリー（電子情報システム）の充実

地域間の連携促進（ネットワーク形成）のため、事業実施地域間の情報交換、事業実施地域以外への情報提供を実施し、各地域の現状や課題について、聞き取り及び現地調査等を行うことにより、各地域の特性を分析する。

・白老地域、平取地域でのネットワーク会議開催（年2回）

・伝承者を始めとする人材交流

・アイヌ文化に関する情報の共有による各地域の特性の分析

また、各地域の伝統文化及び伝承者、活動団体の情報やコタンを中心に点在するアイヌ語地名、遺跡、伝承地、景観などの現況や実態を調査し、その結果をデータベース化し、伝承活動等に活用できるライブラリー（電子情報システム）の充実を図る。

・伝承者、活動団体の活動状況等の情報の収集、整理

・アイヌ語地名、遺跡、伝承地、景観等の現況等の把握、整理

(2) 伝承者育成事業

熟練された伝承者の指導のもと、アイヌ文化に関する総合的・実践的知識や教養を身に付けたアイヌ文化の伝承者の育成を図る。

・平成20年度からの受講者が継続受講

(3) カヤ・ガマ等の採取に関する調査

チセ等の材料となるカヤ・ガマの生育地の情報を収集し、今後の伝承活動に利用できるよう規制緩和等も含めた検討を行う。